

# 農林水産省

2010-11 I種入省案内

Ministry  
of  
Agriculture,  
Forestry  
and  
Fisheries

農林水産省本省案内図



地下鉄丸ノ内線、日比谷線、千代田線 霞ヶ関駅 A6、A7、A9出口  
※来館の際は、身分証(学生証、免許証など)をご持参の上、正面玄関よりお越し下さい。



問い合わせ先

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省大臣官房秘書課企画第1班(本館3階ドアNo.362)

電話.03-3502-8111(内線3002)

03-6744-2001(夜間直通)

ホームページ <http://www.maff.go.jp/>

e-mail recruit2011@nm.maff.go.jp(事務系) saiyou\_kanbou@nm.maff.go.jp(技術系)



# Vision Statement

わたしたち農林水産省は、  
いのち生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を  
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、  
常に国民の期待を正面から受けとめ  
時代の変化を見通して政策を提案し、  
その実現に向けて全力で行動します。

## 受け止めるチカラ、発信するチカラ

農林水産省の業務のひとつひとつは国民のみなさんの生活に直接関わり、社会的にも関心が高い重要なものばかり。

農林水産省の職員ひとりひとりが真摯に国民の声に耳を傾け、また、農林水産省の政策を発信していくことが求められています。

## 広がるフィールド

日本の農地・林地は国土の8割を占めており、国土のほとんどが農林水産省のフィールドです。

また、農林水産省の関わる業務は、環境保全、地域振興、食料安全保障、政策外交など多岐にわたります。ローカルにもグローバルにも幅広く活躍する場があるのが、農林水産省の魅力のひとつ。ただし、それだけ幅広い視野とバランス感覚が求められています。

## 現場主義

畑、市場、食卓…それが農林水産省の現場。積極的に現場に足を運んで、現場の声を聞き、現場を少しでも知ることが大切です。

農林水産省では、より知ろうとするどん欲さ、積極的に省を飛び出す行動力が求められています。

## 出すぎた杭は打たれない

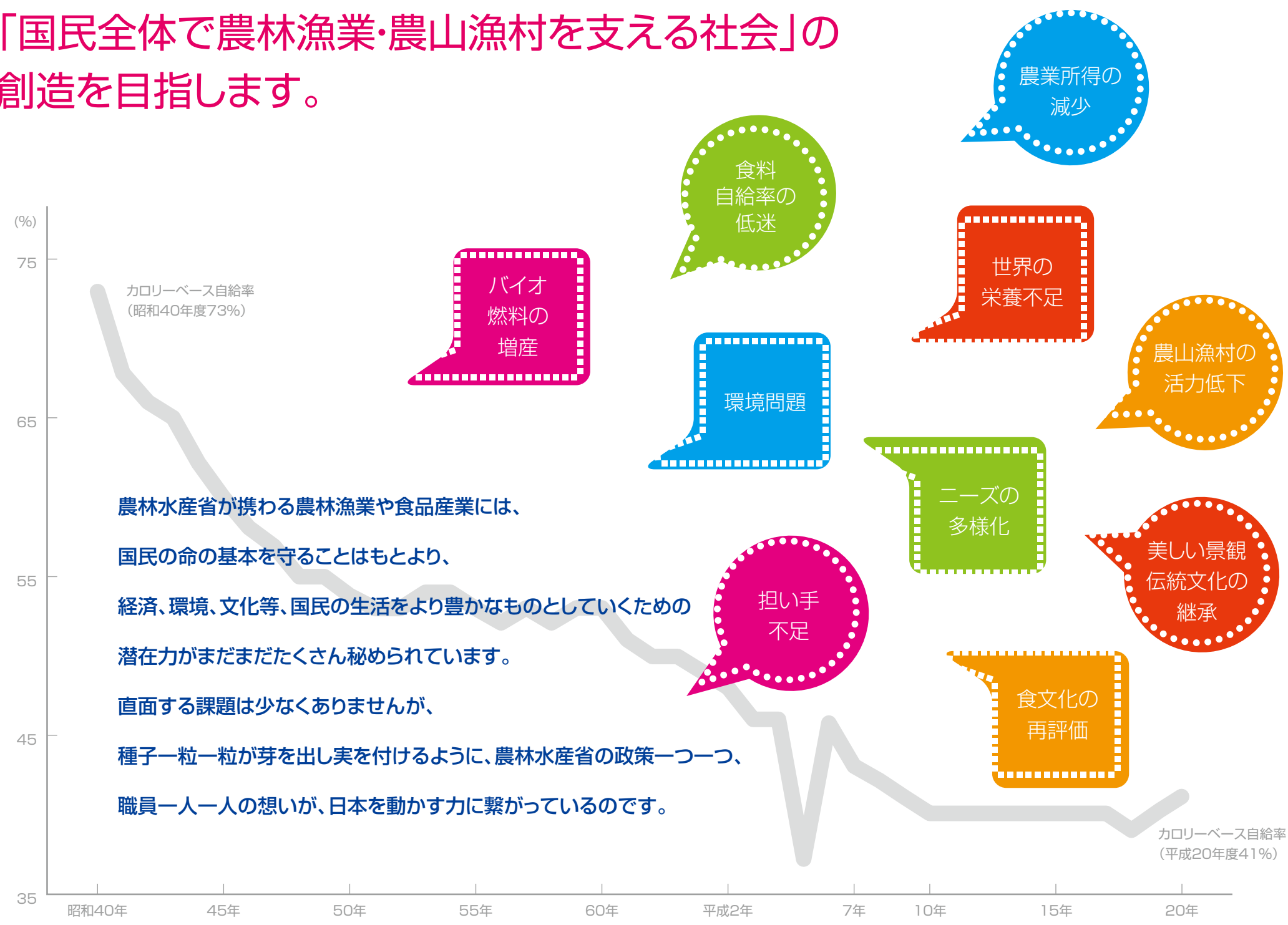
農林水産省の業務は多岐にわたり、フィールドも広いことから、自分の興味関心の枠を超えて、困難なことにも挑戦する果敢さが求められます。

「出すぎた杭は打たれない」。何事にも挑戦していく向上心、何があっても諦めない打たれ強さが求められます。



# Switch agricultural policy!

国家戦略としての農政の転換を、  
今こそ図るとき!!  
「国民全体で農林漁業・農山漁村を支える社会」の  
創造を目指します。



## COTENTS

	<b>MAFF mission</b> 05
	mission01 戸別所得補償制度 mission02 農山漁村の6次産業化 mission03 水産資源を巡る国際交渉
	<b>Frontier Profiles</b> 13
	課長からのメッセージ 室長からのメッセージ 課長補佐からのメッセージ 係長からのメッセージ 係員からのメッセージ
	<b>Rookies Profiles</b> 24
	若手アンケート 若手職員の日
	<b>another fields</b> 27
	海外出向者からのメッセージ 地方出向者からのメッセージ 民間出向者からのメッセージ
	<b>carrier planning</b> 31
	キャリアパス・研修制度
	<b>recruit info</b> 33
	採用スケジュール・福利厚生



# MAFF mission

日本を動かすミッション始動中！

mission 01  
農業を支える  
新しい  
ステージへ！  
～戸別所得補償制度～

mission 02  
さらなる拡大と  
発展を  
目指して！  
～農山漁村の6次産業化～

mission 03  
将来にわたって  
水産物を安定的に  
供給するために！  
～水産資源を巡る国際交渉～





# 食料自給率のアップに向けて、農業を支える新しいステージへ！ ～戸別所得補償制度～

## MISSION 01



大臣官房政策課戸別所得補償制度推進チーム  
参事官

**山口 英彰** Hideaki Yamaguchi

昭和60年入省 事務系(法律)  
入省後、林野庁林政課に配属。  
消費者行政、農協・金融行政、経営政策などを担当し、  
途中、静岡県や首相官邸に転出。  
経営政策課長、協同組織課長を経て、  
平成21年10月から現職。  
座右の銘：質実剛健  
趣味・特技：古都巡り、ふすま張り  
マイブーム：体重計に乗る

大臣官房政策課 課長補佐  
**布施 吉章** Yoshiaki Fuse

平成13年入省 事務系(法律)  
入省後、食糧庁企画課に配属。  
財務省主計局調査主任、林野庁企画課長を経て、  
コロンビア大学国際公共政策大学院に留学。  
帰国後、金融行政を担当した後、現職。  
座右の銘：信用第一  
尊敬する人：父、大学時代の友人・恩師  
趣味・特技：音楽鑑賞、読書、ガーデニング、ウォーキング  
マイブーム：サッカー観戦

大臣官房政策課 室長  
**福田 英明** Hideaki Fukuda

昭和61年入省 技術系(農学)  
入省後、農産園芸局畜系課に配属。  
食品流通局砂糖類課係長、科学技術庁研究開発局ライフサイエンス課補佐、  
生産局環境保全型農業対策室長を経て、現職。  
座右の銘：継続は力なり  
尊敬する人：特産振興課時代の上司・同僚・研究会委員の方々  
趣味・特技：スポーツ観戦、コンサート鑑賞、推理  
マイブーム：赤ワインの収集



農業の  
底支えを  
する政策に

今が正念場。  
待ったなしです。

### 皆さんのミッションについて教えてください

**山口** 厳しい状況にある日本の農業を復活させて、将来的に国民の皆さまに食料を供給できる産業として発展させていく。それと同時に、食料自給率の向上や農業・農村の多面的機能の維持に繋げていく。これが戸別所得補償制度の目標としているところです。

**福田** 誰が地域の農業や農村を守っていくのか、どうやって後世に引き継いでいくのかということ、いよいよ考えなくてはならないような時代がきてしまった。と同時に、まさに今が正念場であり、政策を大きく変えられるチャンスの時でもあるんです。

**布施** そこで、これまでの施策とは大きく方針変更をしました。規模などに関係なく、やる気のある農家であれば、誰でも伸びていけるという環境に変え、価格政策から所得政策へという点が、これまでの施策とは大きく違うところです。

### このミッションに取り組むことのおもしろさはどこにありますか？

**布施** 今年1月から全国各地で説明会を1万回以上実施し、参加人数は延べ約40万人。これまでの農政に無関心だった方などにも参加していただいています。それに、海外からの関心も高くて、EUから制度説明の要請があり、参事官が出張されたり、在日の各国大使館の方が訪ねてこられることもあります。自分の仕事は周囲の

方々の関心が高い仕事なんだと思うと、責任感が湧くと同時に、やりがいのある仕事についているなあと感じます。

**福田** 政策立案のときは既存の施策を取り巻く様々な関係者と調整をしながらより良いものに変えていくという苦労がありますが、今回は、自分たちで議論を重ね創り上げるという点で、とてもエキサイティングなミッションです。更地にマイホームを建てるような充実感がありますね(笑)

**山口** このチームは、政治主導の中での国家公務員の役割やスタンスをどう位置付けていくかが試されたんだと思います。短い時間で検討しなければならなかったのが不安はありましたが、私たちが政務三役と議論させていただいたことはきちんと形になっています。政務三役とともに政策を作っていく。これは非常におもしろいと感じます。

### チームの雰囲気はどうでしょうか？

**山口** 室内が静かということは減多にありません。改めて打合せをするというよりは、普段からみんなが大きい声で話るので、自然と情報は共有され、気づけばチーム内で議論が始まっています。

**布施** そういう風に周りの方に議論に参加してもらおうと、物事が間違った方向に走り出す前に早く軌道修正されるので、助かるんですよ。日々いろいろな事がすごいスピードで動いているチー

ムですから。  
**福田** この風通しの良さは、省全体でも共通していることなんですよ。農林水産省は若手から幹部、さらには政務三役まで、意思疎通が円滑に図られていて、とても働きやすい職場だと思います。

### 最後に、学生へのメッセージをお願いします

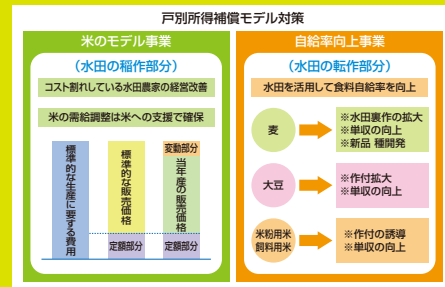
**山口** 食や農というのは、人間が生きていく上でのベースとなるもの。農業の背景には歴史や文化というものがある、日本人のアイデンティティを形づくっている。それを継続させていくということが、食料の安定供給につながる。そういう仕事を一緒にやれる方、気概のある方は、ぜひ農林水産省にきてください!

**福田** 学生の中で研究の道に進みたいと思う方は多いと思いますが、そもそも産業がしっかり成り立っていないと研究だけを進めても意味がないんですよ。ですから、技術系の方にも、国を動かす仕事にもっと参画してほしいなと思いますね。多様なバックグラウンドを持った仲間と仕事できるという意味でも、皆さんにとって大きなメリットだと思います。

**布施** 農林水産省にはいろんな政策課題があります。自分なりの政策プランを持ち出せるようになるには、時間もかかりますし、自己研鑽が必要。でも、そういうところに面白さがあるので、ぜひチャレンジして下さい。

### 戸別所得補償制度とは？

戸別所得補償制度は、我が国の農業・農村が大変厳しい状況にある中で、食料自給率の向上を図るとともに、農業と地域を再生させ、農山漁村に暮らす方達が将来に向けて明るい展望を持って生きていける環境を作り上げていくためのものです。  
平成22年4月からスタートしている戸別所得補償モデル対策は、  
①農地の5割を占める水田を余すところなく活用して、自給率向上のポイントとなる麦、大豆、米粉用・飼料用米といった作物の生産拡大を促す「自給率向上事業」  
②余っている米の生産を抑えつつ、水田農業の経営安定を図るために、恒常的に赤字に陥っている米に対して補てんする「米のモデル事業」の2つの事業をセットで実施することとしています。  
23年度から本格実施される戸別所得補償制度は、このモデル対策の効果や事業運営を検証しつつ、制度設計が行われます。







# さらなる拡大と発展を目指して! ～農山漁村の6次産業化～

## MISSION 02

生産局6次産業法案検討室  
課長補佐

**野津 喬** Takashi Nozu

平成10年入省 技術系(農芸化学)  
入省後、統計情報部生産統計課に配属。  
農産園芸局農産課係員、  
生産局総務課係長、  
政策研究大学院大学留学、  
生産局農業生産支援課鳥獣被害対策室課長補佐等を経て、現職。  
座右の銘: シンプルイズベスト  
尊敬する人: 両親  
趣味・特技: 料理(ピザを粉から作ります)  
マイブーム: ベランダ菜園

生産局6次産業法案検討室  
係長

**長田 恵理子** Eriko Nagata

平成16年入省 事務系(法律)  
入省後、農村振興局総務課に配属。  
農村振興局土地改良企画課法令係、  
大臣官房秘書課企画係、  
林野庁林政課総務係長を経て、現職。  
座右の銘: 「女はギャップ」(笑)  
尊敬する人: 両親、これまでお世話になった上司・先輩(たくさんいます)  
趣味・特技: 旅行(東南アジア大好き)、歌うこと  
マイブーム: 英語の勉強(もうすぐ米国留学です!)



生産局6次産業法案検討室  
課長

**川合 靖洋** Yasuhiro Kawai

昭和61年4月入省 事務系(経済)  
水産庁漁政課配属、  
栃木県農業経済課長、  
財務省理財局たばこ塩事業室長、  
総合食料局食品産業企画課長等を経て、現職。  
座右の銘: 仕事は、「段取り八分」  
尊敬する人: 両親  
趣味・特技: 競技ダンス(モダン!!)、ラーメン食べ歩きなど多数  
マイブーム: 11月に開催予定の高校のOB・OG会を  
盛会裏に終わらせること(総勢約300人!)



チームだから  
できる!  
チームじゃなきゃ  
できない!!

霞が関じゃない、  
現場に生きる  
制度を創る。

農林水産業の  
未知なる可能性を切り拓く。  
それが私たちの仕事。

### 6次産業化とは?

**川合** 最近農山漁村に元気がない、農林漁業者の方は高齢化し、収入は減少している。そういう中で目を転じてみると農山漁村には多くの資源がある。その資源をうまく使って、一次産業である農林漁業を中心として、二次産業の製造業、三次産業の販売業などが融合・連携して農山漁村を元気にしようというのが「6次産業化」という考え方です。

**野津** 当初は農林漁業者の方が加工や販売に取り組むことを応援するというシンプルな内容だったんですが、様々な立場の方々と議論していくうちに、「6次産業化の意味するところってもっと広いよね」という話になり、スケールが次第に大きくなっていきました。

**長田** 中心にあるのは農林水産業ですが、周辺産業との連携や融合が大切なので、他省との協力が非常に重要なプロジェクトでもあるわけです。

### どんな苦労がありますか?

**川合** 今まさに6次産業化の取組みを支援する法律を世に出そうとしているところなので、現在進行形でいろんな苦労は続いているんですが、このプロジェクトは政府としての主要政策でもあり、国会議員の方々の関心が非常に高いんです。従来にないほど議論に多くの時間をかけ、その中で私たち

が作成した原案にたくさんのご意見をいただきました。様々な方々の想いをいかにして目的や内容に反映させるかということが、最も苦労した点ですね。

**野津** その後の内閣法制局や他省庁との調整にもエネルギーを使いましたよね。

**長田** 現在進行形というお話がありましたが、法律案ができあがった後も施行に向けて円滑に運用できるようやるべきことがたくさんあるんですね。今日もチームの他のメンバーは現場に出張しています。実際に現場を見ることにより、イメージを持って法律施行の準備をすすめることができます。

**野津** 机上の作文なら誰でもできる。でもやっぱり現場を見ないと文章に熱さという温度が込められないですね。

### チームの雰囲気はどうでしょうか?

**長田** 課長がうまくマネージメントしてくださっているので、誰か一人だけに負荷がかかるということはありません。だからこそ、忙しくてもみんなで作るぞって気持ちになります。

**野津** 役人人生の中でこのようなプロジェクトチームに参加するのは実は初めてで、最初は構えていたんですけど、みなさん良い方なので安心しました。

**長田** 閉じられた空間でそれはそれは長い

時間ずっと一緒にいるので、もう家族くらいの勢いです(笑)。

### 最後に、学生へのメッセージをお願いします

**長田** 農林水産省の仕事、特に今の仕事は、新しい期待のつまった取組を応援していくという夢のある仕事です。大学でも、どうすれば世の中がよくなるかということを議論すると思うんですが、あくまでもそれは自分たちの頭の中でやっていることであって、それを本当に動かしていくことができる、そういう舞台が農林水産省にはあると思います。

**野津** 農林水産省というところは、職員が明るくて前向きで、職場の雰囲気がいっぱいあると思います。ですから働きやすいという面でもオススメの職場です。

**川合** このプロジェクトに代表されるように、農林水産省にいても一次産業だけということではなくて、ワイドにトータルに対応していかないといけない時代になっています。

政治主導と言われるように、国政は政治家の先生が担ってられるわけですが、こうした政治家の先生方と直接に接し、政治の息吹を感じながら、政策議論をすることができるなど、国政のダイナミズムを感じることができる、エキサイティングな職場です。ぜひみなさんチャレンジしてください!

### 農業・農村の6次産業化?

農業者による生産・加工・販売の一体化や、農業と第2次・第3次産業の融合等により、農山漁村に由来する農林水産物、バイオマスや農山漁村の風景、そこに住む人の経験・知恵に至るあらゆる「資源」と、食品産業、観光産業、IT産業等の「産業」とを結び付け、地域ビジネスの展開と新たな業態の創出を促す農業・農村の6次産業化を推進します。

<p>地域資源を活用した新事業の創出</p> <p>木質バイオマス 製品利用</p>	<p>農商工連携</p> <p>高品質な茶葉を使用した高級ボトリング茶</p>	<p>再生可能エネルギーの利用</p> <p>太陽光発電施設</p>
--	---	------------------------------------





# 将来にわたって 水産物を安定的に供給するために！ ～水産資源を巡る国際交渉～

## MISSION 03

水産庁資源管理部国際課係員  
**田上 航** Wataru Tanoue

平成19年入省 技術系(農学IV)  
入省後、水産庁沿岸沖合課に配属され、現職。  
尊敬する人：榎村直己  
趣味・特技：登山、一人旅  
マイブーム：昼休みのサッカー

水産庁資源管理部国際課長  
**下村 聡** Satoshi Shimomura

昭和61年入省 事務系(経済)  
入省後、林野庁林政課に配属。  
在カナダ日本国大使館一等書記官、  
福岡県農政部長、  
大臣官庁環境政策課バイオマス推進室長等を歴て、現職。  
座右の銘：自然体  
尊敬する人：誠心誠意がんばる人  
趣味・特技：テニス  
マイブーム：生物学

水産庁資源管理部国際課漁業交渉官  
**神谷 崇** Takashi Koya

昭和60年入省 技術系(水産)  
入省後、水産庁振興課に配属。  
ワシントン大学留学、  
石川県農林水産部次長等を歴て、現職。  
座右の銘：人事を尽くして天命を待つ  
尊敬する人：黒田如水  
趣味・特技・マイブーム：釣り



これまた大胆に  
攻めるね～

交渉には常に相手があることを忘れてはダメ。でも、主張すべきところを譲らない強さも必要。

### 皆さんのミッションについて教えてください

**下村** 水産庁の仕事というのは、実は、国際交渉のウェイトがとても大きいんですよ。というのも、魚は国境に関係なく各国の海を泳ぎ回りますので、農業や林業とは違って、水産業は生産現場を他国と共有することになるわけです。そこで、関係国間で、漁業資源管理のルールを決めながら漁業を行わなければならないのです。国民の皆さまに魚を供給すると同時に、漁業資源を守るという責務を果たすべく、私たちは、交渉を行っています。かねてから日本は世界有数の魚の消費国です。一方で、近頃は世界的に水産物の消費が拡大しています。このような中で、今後ますます、日本が世界のリーダーシップをとって、漁業資源を守り、そして未来の世代にも安心して魚を食べられるようにしていくことが求められています。

### 交渉はどのように進められるのですか？

**下村** チームメンバーにはそれぞれ役割があります。まず、私は課長として国内対応を行います。国内の関係者への説明、マスコミ対応などが主な仕事です。最前線に立つ交渉官が少しでも動きやすいように環境を整え、また、彼らの成果を速やかに省内外に発信することが求められます。

**神谷** 私は交渉官ですので、まさに交渉の最前線に立ちます。年間で大体100日は出張し

ていますね。私の役割は、あらかじめ決めた方針に沿って日本の主張をし、交渉の成果である文書を採択することです。日本にいるメンバーと緊密に連絡を取り合いながら、交渉が国内漁業や食料供給にもたらす影響を、常に念頭に置いて臨んでいます。

**田上** 私の仕事は、データ収集や資料作成です。交渉を成立させる上で不可欠な要素なので、英語のデータを分析しなくてはならないといった苦労はありますが、やりがいは大きいです。

### 漁業交渉の醍醐味は？

**田上** 大西洋クロマグロ交渉で成果を出せた時は、私たちの取組みが国民の皆さまにきっちり伝わり、評価していただけたと実感でき、たいへんやり甲斐を感じました。

**神谷** 交渉の現場において、一番心躍るのは、やはり自分のミッションを果たし、採択文書の中に目的とした内容が反映された瞬間ですね。

また、交渉と言えば、華やかな外交というイメージかもしれませんが、実は9割は事前の準備、調整なんです。日頃から、各国のカウンターパートと連絡を取り合っており、人間関係を築いておくこと、日々の情報収集を怠らないことが、交渉においては極めて重要になります。交渉で厳しく対立した交渉官たちが、一歩会議室を出れば楽しく雑談をしている場面も見

かけますが、これも情報収集や駆け引きの一部であり、気が休まることはありません。

**下村** 交渉は、将来にわたって豊かな水産資源を享受することができるようにするための、日々の取組みの一部分だと私は思っています。ですから、このような取組みを、一つ一つ積み重ねて着実に進んでいくことが、本当の意味でのこの仕事の醍醐味だと感じますね。

### 最後に、学生へのメッセージを。

**下村** 農林水産省に入省して20年近くが経ちますが、今、これまでになく食や農林水産業に対して、国民の皆さまの関心が高まっていると思います。多くの方々の視線が寄せられており、外部の人たちとも連携しながら行政という立場で、広い視点を持って仕事をすることが出来る職場です。是非一度農林水産省に足を運んで下さい。

**神谷** 魚を守り、将来にわたり美味しい魚を供給するために、農林水産省での仕事ほどやりがいのある仕事はありません。現場から国際社会まで、という幅広いフィールドで、多種多様な仲間と働けながら働くことは、とても刺激的で挑戦的な毎日です。

**田上** 学生時代にしかない、長期の休みや平日の空いた時間を有意義に使っていただきたいです。学生時代の様々な経験は、皆さんの糧となり、農林水産省で働く上でも必ずそれが生きてきます！

### カツオ・クロマグロ資源は大丈夫!?

世界的な水産物需要の増大を背景に、世界の漁業生産量は増加を続けてきましたが、近年、海面漁業の生産量は頭打ちとなり、一部の水産資源は状況が悪化しています。そこで、例えばカツオ・マグロのように広く海洋を泳ぎ回る魚については、関係各国によって成る5つの地域漁業管理機関が、魚種ごとの資源状況等を踏まえ種々の資源管理措置を実施しています。日本は、それら全ての管理機関に加盟し、科学的根拠に基づいて水産資源を適切に管理するために積極的に取組みを進めています。





# Frontier Profiles

一人一人の想いと力を集結し、  
様々なフィールドを切り開いていきます。

食料政策、  
食品産業

基本政策の  
企画・立案、  
環境政策

農畜産物の  
生産の振興

消費者保護、  
食品安全

生産基盤の  
整備、農山漁村の  
活性化

農業経営の  
改善・安定

農林水産業に  
係る  
試験研究支援

水産物の  
安定供給、  
水産業の発展

森林の整備、  
木材産業の  
振興





お節介なぐらい人のために働きたい、  
そんな人に向いている職場です。

# 経済と環境の 両立を目指す という試練



## My Career

大臣官房環境バイオマス政策課長  
西郷 正道 Masamichi Saigo

昭和55年入省 技術系(農芸化学)(東京飼料検査所飼料管理課配属)  
平成13年1月 大臣官房企画評価課環境対策室長  
平成15年7月 内閣府食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官  
平成18年8月 農林水産技術会議事務局研究開発企画官兼大臣官房  
平成19年7月 現職  
座右の銘:和を以て興しと為す。  
マイブーム:発泡酒の味の分類  
仕事上の必須アイテム:健康な心身  
平均睡眠時間:5~6時間(居眠り含む)  
尊敬する人:日々、身を粉にして働いている当課の職員  
休日の過ごし方:テレビ番組観賞、犬の散歩、娘の宿題の手伝いなど

### 農水省を志望した理由、農水省の魅力

学生時代は大学の先生になりたかったのですが、2年連続で大学院入試に落第したため、就職することにしました。各省を回りましたが、元々食べ物が好きだったのと、人懐っこい人が多い印象を受けたので農水省を志望しました。今でもその印象は正しかったと思っています。

### 現在の業務に携わって感じたやりがいや難しさ

経済と環境を両立させるといふ、誰もが首肯するけれども、実現困難な、他に類例がない政策課題に取り組んでいることは、いくら努力してもこれぞ十分ということがない大きな試練であると思っています。

### 今まで最も心に残っている仕事、エピソード

2年前、農林漁業バイオ燃料法の成立を期して、国会関係者にご説明に回っていた際、次々と入るアポに間に合わなくてと国会内を走っていて、階段で足がつかってしまったことがありました。議員の先生に大変だねと声をかけていただいたのが心に残っています。

### 仕事人としての今後の目標

入省してあつという間に30年経ってしまった感がありますが、「役に立つ人になる」という初心を忘れずに働いていきたいと思えます。

### 学生へのメッセージ

公務サービスは人が頼りです。お節介なぐらい人のために働きたいという人は公務員に向いています。社会全体で食べていくという感覚を共有できる人、農林水産業の持続性を高めることは良好な環境を創造していくことと直結していると思える人、ぜひ、農水省を就職先としてご検討ください。

### 携わっている政策は?

我が国農林水産業の持続可能性を高めるため、気候変動枠組条約、生物多様性条約などの環境条約交渉に当たったり、温暖化防止や生物多様保全に貢献するように生産された農林水産物の付加価値を目に見えるようにするための方策を探っています。



また、バイオ燃料などバイオマスの利活用を積極的に進めているほか、技術開発を核として、農山漁村に豊富に存在する資源を活用した新産業の創出、農山漁村への再生可能エネルギーの導入を図っています。



実態を把握し、パズルをデザインし動力を吹き込む。  
悩みながらも楽しいことばかりです。



# 食を食卓まで 届ける仕事

### 農水省を志望した理由、農水省の魅力

特に関心があったわけではありません。全くなかったといってもいいほど。職業人として過ごす時間は長い。良好な人間関係が築けそうなところ、幅が広く興味が持続しそうなところを選択しようと考えて農水省に。

### 農水省に入って良かったと思う点

周りの人に恵まれて、仕事ができていること。

### 現在の業務に携わって感じたやりがいや難しさ

実態を知る楽しさ、時として意外なコマが出てくることもあるが、それをも組み入れてパズルをデザインしていく楽しさ、パズルに動力を入れて動かす楽しさなど悩みながらも楽しいことばかり。

### 今まで最も心に残っている仕事、エピソード

表示・規格課長時代のミートホープ事件(食肉業者の長期にわたる肉種、産地などの偽装)、赤

福、船場吉兆、ウナギなど2007~8年にかけて多発した食品の表示偽装への対応。危機管理のノウハウ、決断し、組織を動かすことの大変さと動き始めた時の組織力の強さを体験しました。全国の食品表示Gメンに助けられ、1年近く新聞記者に追われる生活だったが、その後の仕事の基礎になっています。

### 仕事人としての今後の目標

人の話をよくきくこと、実践すること。人と人を繋ぐこと。

### 学生へのメッセージ

最初からおもしろい仕事はないし、一見つまらないと思う仕事でも無駄なものはなく、どこかでその経験は生きてくるもの。あるとき突然地平が開けたように仕事は楽しくなるはず。そのためには視野を広く持ち、研鑽を怠らないこと。

## My Career

総合食料局食品産業企画課長  
新井 ゆたか Yutaka Arai

昭和62年入省 事務系(法律)(農畜園芸局総務課配属)  
平成16年8月 林野庁森林総合利用・山村振興室長  
平成17年10月 大臣補佐官  
平成18年10月 消費・安全局表示・規格課長  
平成21年5月 現職  
マイブーム:オペラ鑑賞、せんとくん  
(飛鳥・奈良時代の歴史遺跡を訪ねる旅行)  
仕事上の必須アイテム:仲間  
尊敬する人:冷静沈着な人、決断力がある人

### 携わっている政策は?

食品製造メーカー、食品流通業(卸、小売)、外食など食品に関わる2次、3次産業全般に施策を考えると。農産物を生産するだけではなく、消費者に届けるまでが農水省の仕事です。国内外のフードチェーンの改革、消費者とのコミュニケーションのあり方、食品産業の海外展開の支援など民間の方々との議論しながらよりよい方向を模索しています。







理念だけではない、  
具体的な相手と向かい合う事ができる仕事です。

# 産学連携で、 新価値創出



## My Career

農林水産技術会議事務局 産学連携室長

川合 豊彦 Toyohiko Kawai

平成元年入省 技術系(農学)(食糧庁検査課配属)  
平成15年4月 大臣官房企画評価課企画官  
平成18年8月 大臣官房環境政策課課長補佐(総括班)  
平成19年8月 大臣官房環境バイオマス政策課課長補佐(総括班)  
平成21年7月 現職

座右の銘: 先手必勝、ミッション遂行

マイブーム: 企業、大学等を訪問し、最前線の研究者と意見交換

休日の過ごし方: 4男の少年野球チームに球拾いや審判として参加。練習後のコーチとの懇親会は最高です。

## 携わっている政策は?

これまで世界に変革をもたらしてきたものは、科学であり、技術です。農水省の重要施策である農山漁村の6次産業化や食の安全・安心などを促進するためには、研究開発によって新たな価値を創出することが必要です。

産学連携室では、民間企業、大学、研究独法、公立試験研究機関の力を結集し、優れた研究成果や知的財産の創出を試みています。昨今は、より革新的な技術を生み出すため、農林水産・食品産業分野から飛び出し、エネルギー・医療・素材分野など異分野の関係者にも積極的に働きかけています。そして、研究開発の成果を着実に社会に実装していくため、研究から普及・産業化までを一貫して支援しています。



## 農林水産省に入って良かったと思う点

単なる理念の押しつけではなく、農山漁村という現場や、消費者・農林漁業者・食品産業事業者といった具体的な相手と向かい合っている仕事ができることです。

## 現在の業務に携わって感じたやりがいや難しさ

研究開発を進めるためには、税金の使い方として、国民に理解してもらうことが必要です。そのためには、日頃から研究成果が、国民生活の向上に貢献していることをPRしておくことが重要と考えています。

研究開発で生まれた技術や商品が、生産現場で普及したり、上市されたりすることに特にやりがいを感じますね。研究設計の段階からゴールを設定し、民間企業、大学、政策部局などと連携することが大切です。

## 今まで最も心に残っている仕事、エピソード

平成13年1月26日の深夜。担当補佐の私に、スイスの民間企業が週明けにもイネゲノム解読終了を宣言するとの連絡が入りました。当時、イネゲノム完全解読は日本が中心となり国際協力で進められており、省内は動揺に包まれましたが、翌週に国際会議を緊急開催。「解読精度に大きな差があり日本中心の計画を加速させせねばならぬ」と世界に発信しました。その2年後、解読終了宣言がなされたのです。

## 学生へのメッセージ

厳しい競争を勝ち抜き、農林水産省に入省した暁には、その志望動機を強く胸に抱き、実現するべく日々自己研鑽に励んでもらいたいと思います。



全国でがんばっている方々と直接話をし、  
肌身で知り、感じたことを仕事に生かします。

# 森と緑を 政策で守る

## My Career

林野庁林政部木材利用課 課長補佐

武田 祐介 Yusuke Takeda

平成3年入省 技術系(林学)(林野庁企画課配属)  
平成4年4月 東京営林局甲府営林署南部森林事務所  
平成5年9月 東京営林局計画課  
平成8年4月 建設省都市局公園緑地課  
平成10年4月 林野庁計画課  
平成13年5月 インドネシア国マングローブ情報センタープロジェクト(JICA専門家)  
平成16年8月 農村振興局農村政策課  
平成18年10月 林野庁整備課  
平成21年9月 現職  
座右の銘: 明日は明日の風が吹く  
平均睡眠時間: 7時間くらい  
休日の過ごし方: テニス、妻と買い物など

## 農水省を志望した理由、農水省の魅力

森や緑を守る仕事をしたいと思っていました。政策的な面から、そうしたことを実現できるところは林野庁だと思ったので、志望しました。

## 農水省に入って良かったと思う点

国有林や海外で、実際に森林・林業の現場で仕事をすることができ、また、農村振興局では全国の農山漁村を見て、がんばっている農林漁業者の方々と直接話をするなど、肌身で知り、感じたことを仕事に生かすことができることです。

## 現在の業務に携わって感じたやりがいや難しさ

国産の木材を使うことが日本の森を守ることだと理解していただいたときが最も嬉しいです。それをできるだけ多くの人に、できるだけ効果的に伝えるためにはどうしたらよいか、最も難しいところです。

## 今まで最も心に残っている仕事、エピソード

インドネシアへ行ったとき、当時のプロジェクトリーダーから、「海外では日本のように仕事は進まないの、電話一本かけたとか、一日1つだけでもこれをやった、ということがあればいい。」と言われました。もちろんそれで満足していいわけではありませんが、日本でも、様々な障害があっても思うように仕事が進まないときには、それを思い出して、1日半歩でも進めばいいという気持ちで腐らずにやることにしています。

## 学生へのメッセージ

仕事を選ぶに当たっては、その仕事で自分がやりたい大きな目的、目標を持つことが大切だと思います。



## 携わっている政策は?

「木づかい運動」や木材利用による環境貢献度の「見える化」などの仕事をしています。「木づかい運動」は、森林の整備促進や「木は体に優しい」といった、国産木材の製品を使う意義を企業や消費者に理解してもらうための普及啓発活動です。また、木材利用の環境貢献度の「見える化」は、生産、加工にエネルギー消費が少なく、成長の過程で温室効果ガスである二酸化炭素を吸収・固定するなどの働きがある木材の環境貢献度をわかりやすく示すための手法を開発、確立し、普及する仕事です。







解決のためのkeyは、自分の感性と現場の現実。「あなたらしさ」は大切な資産です。



# 農山漁村を再生 自立を支える

### 農水省を志望した理由、農水省の魅力

農学は、人に欠かせない食料を生産する農業に関する学問であり、地味であっても必要性は変わらないと考え、大学で学んできました。そして、その学んだ知識を直接生かせる場が農林水産省でした。地方では、自治体や農業者団体と一緒に仕事をして地域の多様性を肌で感じながら、同時に「国民への食料の安定供給のための農業」を語るのには、農林水産省だけです。

### 今まで最も心に残っている仕事、エピソード

ある国営事業の計画を変更するために、地元の方々の同意を得なくてはならない場面がありました。地元の理解が得られ始めていたあるとき、ある町の公民館で、「それは俺の親父の世代の話だ。もう遅い。」「子ども達に借金を残せるか。」などと厳しいご意見をいただき、衆人環視の中で言葉を失って立ち尽くしてしまったことがありました。けれども、不思議なことに、その地区の同意取

得率は決して低くはありませんでした。うなだれた国の職員に、言葉以外で伝わる「何か」があったのではないかと思います。同時に、伝わったものに対し、国の職員として裏切ることはいけないという決意も生まれました。

### 仕事人としての今後の目標

尖った言葉や甘い言葉で人の心を刺激したり関心を牽きつけたりするのはなく、よく練った言葉で人の心を奮い立たせること、これが、今の私の目標です。

### 学生へのメッセージ

入省して数年は先輩や上司の指示を消化するためにあつという間に過ぎていきます。けれども「あなた自身はどう考えますか」と問われる場面もそれほど間を置かずにやってきます。「あなたらしさ」は、感性が高く国民に支持される農林水産省を構成する欠かせない大切な資産です。

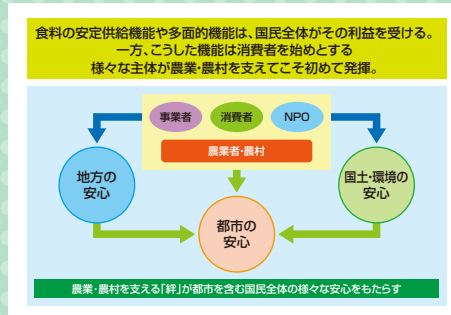
### My Career

農林水産省 農林振興局総務課 課長補佐  
影山 義人 Yoshihito Kageyama

平成5年入省 技術系(農業工学)(構造改善局設計課配属)  
平成6年4月 東北農政局山王海鹿妻農業水利事業所調査設計課  
平成7年4月 郵政省電気通信局電波部計画課  
平成9年4月 構造改善局計画部地域計画課 計画調整室調整係長  
平成11年4月 構造改善局建設部設計課企画係長  
平成14年3月 在トルコ日本国大使館経済班長  
平成17年4月 九州農政局管轄北部農業水利事業所調査設計課長  
平成19年4月 農林振興局整備部設計課事業効果分析専門官  
平成21年4月 現職  
仕事上の必須アイテム：緊張感と余裕。あるべきですが、実際は、あれば素敵ですね。  
平均睡眠時間：5時間  
尊敬する人：自分の弱みをさらけ出せる先輩とどこまでも強気な後輩  
休日の過ごし方：土曜日は体力回復。日曜日は家事手伝い。

### 携わっている政策は？

過疎化や高齢化の進行、所得の減少、集落機能の低下等の問題に直面している農山漁村をどのように再生していくか検討し実行していくこと。持続的な農業生産を下支えする基幹的水利施設の戦略的な保全管理と、食料自給率の向上に直結する農地の排水対策を重点的に推進することが私の携わっている業務です。これらをどのように実現していくかは非常に難しい課題です。費用のかかる場所に住むべきではないとか、公共事業はムダだとかいろんな声が聞こえてきますが、解決のためのkeyは、自分自身の感性と現場の現実にあります。



誇りを持って農林水産業を継いでいって欲しい。農家に生まれた身として、そんな社会が目標です。

# 食卓を豊かにする仕事



### My Career

水産庁漁政部加工流通課 課長補佐  
福島 央 Akira Fukushima

平成10年入省 事務系(法律)(構造改善局総務課配属)  
平成10年11月 構造改善局農政部管理課  
平成13年1月 農林振興局計画部土地改良企画課  
平成13年7月 内閣官房副長官補付(農水担当主査)  
平成15年7月 総合食料局総務課 法令係長  
平成16年9月 消費・安全局衛生管理課 法令係長  
平成17年4月 静岡県焼津市経済部長  
平成19年4月 林野庁林政部木材利用課 課長補佐  
平成20年9月 林野庁森林整備部研究・保全課 併任  
平成21年4月 現職  
座右の銘：強みを生かす  
尊敬する人：何の分野であれ「その道のプロ」と呼ばれる人  
休日の過ごし方：平日にできない分、子どもの相手に丸々費やします。

### 農水省を志望した理由、農水省の魅力

農家の生まれなので本当は農業をやりたい、一方で大学まで行かせてもらったのにこのまま帰るのも申し訳ない、ならば「自分の力で農業のためにやれることをやってからだ」との思いから志望しました。そういう思いを共有できる相手に恵まれた職場だと感じています。

### 現在の業務に携わって感じたやりがいや難しさ

モノの価格に関わる仕事なので、最終的に挑むのは世の中の「需要」です。需要なくして価格はありません。単に、「もっと魚を食べましょう」と言ったところで効果は薄く、店頭で何が、いくらだったら手に取ってもらえるか、そのために何をすべきかを考えなくてははいけません。行政の立場からは特定の商品を無理やり売り込むわけにいかず、個々の生産者の努力や消費者の理解が前提となる難しさもありますが、だからこそやりがいもあるのだと思います。

### 今まで最も心に残っている仕事、エピソード

焼津市役所や林野庁木材利用課での仕事相手は民間企業の社長など経営の第一線にいらっしゃる方々。知識不足から、当初は相づちを打つだけで(あるいは黙って頷くだけで)精一杯でした。公務員は経営感覚に乏しいと言われがちですが、それではいけないと大いに身につまされ、その頃から新聞や本の読み方も、読む量も変わりました。

### 仕事人としての今後の目標

農家・林家・漁家に生まれた子どもが、親から「こんな田舎に残ってちゃダメだ」と言われないうように、誇りを持って農林水産業を継いでいけるように、というのが大きな目標です。

### 学生へのメッセージ

できれば、何でもいいから一つ、突き抜けた知識・技術を持ってきてください。仕事はチームでやるものなので、あなたが貢献できる(しなければならない)場面にすぐに行き当たります。一緒にいい仕事をしましょう。

### 携わっている政策は？

加工流通課では、水産物の流通・加工・消費、平たく言えば港に水揚げされることから、食卓に届くところまでの間を広く担当しています。最近では消費者の「魚離れ」が進んでおり、国内消費仕向も減少傾向にあります。消費地では「魚は割高」と言われますが、一方で漁業にかかるコストが上昇傾向にある中で産地では「魚価が安い」と言われています。将来にわたり主要なタンパク源である水産物が安定的に供給され続けるよう、漁業・漁村の6次産業化を通じた手取りの向上などにより産地側で持続的な経営がなされていくことと、水揚げからの一貫した衛生管理などにより消費地側で安全な国産水産物への信頼感が一層高まっていくことの双方を目指しています。







農林水産業が直面する課題は多い。  
しかし、それは、やりがいのある仕事ということ。

# 希望の持てる 農業環境を 整える



## My Career

経営局総務課 総括係長

吉田 篤史 Atsushi Yoshida

- 平成16年入省 事務系(法律)(消費・安全局総務課配属)
- 平成16年10月 消費・安全局消費安全政策課
- 平成17年11月 消費・安全局総務課
- 平成18年4月 長野県川上村役場(出向)
- 平成20年4月 経営局保険課
- 平成20年11月 経営局構造改善課
- 平成21年3月 経営局保険課
- 平成21年10月 現職

座右の銘：ワークライフバランス 現状維持では後退するばかりである

マイブーム：司馬遼太郎の本を読むこと

仕事上の必須アイテム：整理整頓された机

平均睡眠時間：4.5時間(平日)

尊敬する人：松下幸之助

休日の過ごし方：夫婦共働きということもあって、1日は1週間分の家事をします。もう1日は、妻と食事に行ったり、買い物に行ったりと、リフレッシュのための日として過ごしています。

### 農水省を志望した理由、農水省の魅力

仕事を選ぶに当たっては、命や生活を守る仕事をしたという思いが強くありました。食べ物に困らない社会を作ることはいつの時代のどの社会でも求められる重要なテーマであって、自分が誇りをもって取り組める(取り組みたい)内容であると考えたことから、これを実現するため農水省に入りました。

### 農水省に入って良かったと思う点

霞ヶ関の仕事はデスクワーク中心ですが、農水省は、現場に出る機会が多いため、現場がどのようになっているか、何が問題であるかを自分自身が感じた上で、政策を考えることができます。

### 今まで最も心に残っている仕事、エピソード

東京出身で農業の実態に詳しくないため、入省3年目から2年間長野県の川上村役場で働かせていただきました。毎日のように農業者や農協の方とやりとりをする機会に恵まれ、この経験が、今、本省で物事を考える際の基礎になっています。

### 仕事人としての今後の目標

農林水産業のことばかりを考えるのではなく、情報収集のアンテナを高くはって、これからの社会がどうあるべきか、そのためには農林水産業をどのようにしていくべきかを考えられる視野の広い人でありたいと思います。

### 学生へのメッセージ

農林水産業に対する知識は(まだ)なくてもよいので、現場を自分でしっかり見ながら国の政策を考えたいという方には、当省をおすすめします。



業務内容が新聞に掲載されたのを見た時、多くの人に影響を与える仕事だと実感しました。



# 畜産の可能性を、 食料供給に生かす

### 農水省を志望した理由、農水省の魅力

畜産は食用にならない草やわらで牛肉や牛乳といった食料を生産できるということに気付いた時、畜産に大きな可能性を感じ、「この特徴を食料供給にもっと生かせるのではないかと」思い、農林水産省を志望しました。

### 現在の業務に携わって感じたやりがいや難しさ

飼料穀物が短期的にひっ迫する事態に備え、畜産農家へ安定的に配合飼料を供給することを目的として、輸入依存度の大きい飼料穀物の備蓄事業を行っていますが、その一方で保管経費などに多額の予算を投じています。財政事情が厳しい中、予算の効果的な活用のため、適正な備蓄水準を判断するとともに、国内の飼料生産の振興と輸入・備蓄の関係を考慮するなど、全体の最適化を図ることが求められます。これは、容易なことではありませんが、だからこそ、やりがいがあるのだと思います。

### 今まで最も心に残っている仕事、エピソード

入省1年目の時、仕事の進め方について、上司に相談し、指示を受けながら業務をこなしていましたが、その内容が次の日の新聞に掲載されているのを見て、多くの人に影響を与える責任のある仕事をやっているのだと実感したことを覚えています。

### 仕事人としての今後の目標

地方自治体や海外で勤務し、様々な経験をする事を通じて、幅広い視野で物事を考えることができるようになり、社会の変化に対応した農政の実現に貢献したいです。

### 学生へのメッセージ

農業所得の減少、担い手不足、農山漁村の活力低下など、農政には難題が山積していますが、農業・農村はこうした難題に対応する潜在力を秘めています。農業・農村が持つ力を、一緒に引き出してみませんか？

生産局畜産部畜産振興課  
需給対策室 需給係

中村 主貴 Kazuki Nakamura

平成19年入省 技術系(農学)  
(生産局畜産部食肉鶏卵課配属)

平成20年4月 大臣官房政策課

平成22年4月 現職

座右の銘：風林火山

マイブーム：野球観戦

仕事上の必須アイテム：元気・やる気・同期

平均睡眠時間：6時間

尊敬する人：盛田昭夫、吉田沙保里

休日の過ごし方：運動(バレーボール)、DVD鑑賞

## 携わっている政策は？

農業が産業として持続的に発展するためには、農業者が希望を持って農業に従事し、収益を上げることができる環境を整える必要があります。このため、経営局では、競争力のある経営体が多く確保されることを目指し、新たに農業を行おうとする意欲ある多様な農業者を育成・確保したり、農業者が自ら取り組む経営規模の拡大など経営の発展を目指す取組を後押しするなどの業務を行っています。例えば、日本は、気象変化の最も激しいアジア・モンスーン地帯に位置しているため、日本の農業は、風水害、冷害等種々の災害にしばしば見舞われ、広い地域にわたり甚大な被害を受けやすいという宿命を有しています。このため、農業経営を安定させるためには、こうした災害を受けたとしても、農業を継続できる環境を整える必要があります。この目的を達成するためには、国が被災した農業者に補助金を交付したりする方法も考えられますが、この場合、その時々々の財政状況に影響されたりするなどの問題があります。このため、国では、保険の仕組みを用いて、農家が自然災害にあったときにその被害に応じたお金を受け取れる制度を構築しています。また、現在は、この制度を合理化し、効率的に運営されるよう取り組んでいます。



## 携わっている政策は？

畜産振興課は、家畜改良・増殖、飼料生産など、名前のとおり畜産の振興を図る課です。日本の畜産は、戦後の所得向上に伴う畜産物需要の増大に対応するため、飼料基盤が不十分のまま輸入飼料に依存して発展してきたため、飼料自給率は26%と低い水準にあります。その結果、2008年の世界的な穀物価格の高騰が、畜産農家の経営に大きな打撃を与える事態をもたらしました。

このような輸入飼料に依存する体質から脱却し、自給飼料基盤に立脚した畜産を確立するため、飼料用米やエコフィードの生産・利用の拡大、堆肥の活用、飼料用米の稲わら利用、水田放牧の取組といった耕畜連携による資源循環型飼料生産の支援、草地等の生産性の向上、良質飼料の生産・流通体制の強化を図り、飼料自給率の向上を目指しています。







現場の生の声から、国際交渉の最新情報まで、「食」を通じて触れられることが魅力です。

# 安全な食品を届けるために



## My Career

消費・安全局消費・安全政策課 企画調査係  
木村 日都美 Hitomi Kimura

平成20年入省 技術系(理工IV)(消費・安全局消費・安全政策課配属)  
平成22年6月 現職  
座右の銘：哲学し、行動する花となれ  
マイブーム：デパ地下スイーツめぐり、ゴルフ  
仕事上の必須アイテム：笑顔・同期  
平均睡眠時間：7時間  
尊敬する人：包容力のある人  
休日の過ごし方：自転車で都内を散策しています。

### 農水省を志望した理由、農水省の魅力

大学で薬学を学んでいたときから、人のいのちを守る仕事に興味がありました。病気に対して適切な治療をすることも大切ですが、健康維持に不可欠な食べ物を育て、守る業務に携わりたいと考え、農水省を志望しました。

また、「食」を通じて国内、国際両方の分野で活躍の機会があることも農水省の魅力です。現場の生の声を聞きながら、国際交渉の最新情報に触れられる職場は、他にはなかなかないと思います。

### 現在の業務に携わって感じたやりがいや難しさ

消費者、生産者、食品事業者など考え方が異なる関係者との調整業務に難しさを感じます。安全が確認できない食品を流通させるべきではないとの考えもありますが、一方で、現場の実情を反映させた考え方もあります。主張する部分と譲歩できる部分を考えて、お互いのベストの状況を探ることは非常に難しいです。しかし、自分が考え抜いて出した案を相手が受け入れてくれた時は、大きなやりがいを感じます。

### 今まで最も心に残っている仕事、エピソード

仕事がうまく回せず落ち込んでいた時期に、ある先輩から「一人じゃないよ。ちゃんと見ているから。あなたなら出来る。」と言っていた言葉です。見守っているからできるところまでやってくらんと、自分の背中を少し押ししてもらえました。一人の職員として周りの方々がかちんと認めてくれたことに気づき、ミスばかりでも頑張ってきてよかったと感じました。

### 学生へのメッセージ

これから自分がどんな人生を送りたいか、いっぱい悩んで、そして考えたことを行動に移してみてください。その踏み出した先に「農業」や「食」があったら、一度農水省に来てその雰囲気を感じてもらえたら嬉しいです。

## 携わっている政策は？

農水省は、食品中の有害な化学物質による健康被害を未然に防ぐため、農場から食卓まで、必要な対策を実施することで、食品の安全性向上の取組を進めています。そのためには、まず、どのような有害化学物質がどの食品にどれだけの量、含まれているのかということをかちんと把握することが非常に重要です。

食品中の有害化学物質の含有実態調査を計画的に実施するために、農水省は、優先的に取り組むべき化学物質を定めた中期計画を策定しています。

私の現在の職務は、国内外の状況、消費者や食品事業者との意見交換の結果に基づき、平成18年に策定された現在の中期計画の見直しを行い、平成23年度から今後5年間に必要な調査を検討することです。

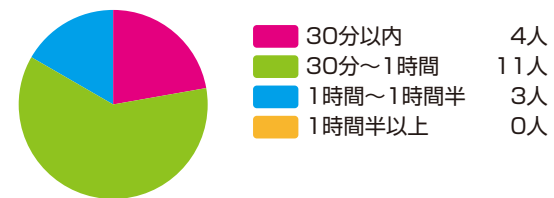


# Rookies Profiles

入省2年目の若手職員に、職場のこと、プライベートのことを聞いてみました。入省後、どのような生活が待っているか、イメージしてみてください!

## 若手アンケート

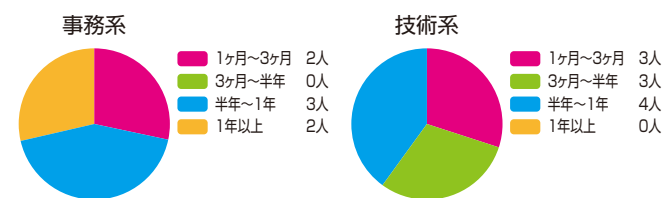
Q.1 通勤時間はどれくらいですか?



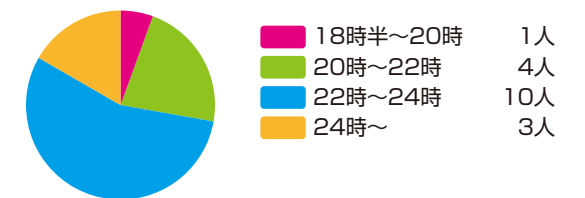
Q.2 現在どこに住んでいますか?



Q.3 公務員試験はどのくらい勉強した?



Q.4 平均帰宅時間は?



Q.5 農林水産省の志望理由は?

- A. 大学で学んだ専門知識・経験が活かせる職場だったから。
- A. 農業は問題山積。取り組むべきことがありやり甲斐がある職場だったから。
- A. 世界の飢餓や貧困をなくすための仕事がしたかったから。
- A. 職員の方の雰囲気が良かったから。
- A. 農業や食料こそが人間の命の源だから。

Q.6 職場の雰囲気は?

- A. 優しい人が多い。
- A. 様々なバックグラウンドを持った人がいる。
- A. 想像以上に仕事を任せ育てる雰囲気があり、気合いが入った。
- A. 風通しが良く、自由闊達な議論が出来る。
- A. 和やか9割、緊迫1割。
- A. 仕事以外でも一緒にご飯をしたり旅行に行くなど、コミュニケーションは◎

Q.7 ストレス解消法は?

- A. 先輩や同期と飲みに行く。
- A. 必要以上に思い詰めずに、帰宅後は熱帯魚に癒される。
- A. 本当に忙しかった時、毎日10分ほど上司とお互いを褒め合った。
- A. 廊下で踊るラジオ体操。
- A. 泣ける映画を観る。
- A. 寝て食べて笑う。

Q.8 省内外の取組自慢は?

- A. 有志による農作業グループや間伐クラブなどがある。
- A. かなり上の上司が、係員向けに農政一般の勉強会を開いてくれています。
- A. 省内職員有志で行う勉強会があります。中国語勉強会など。
- A. テニスサークルなど、運動系のサークル活動が活発。

Q.9 学生時代の経験で役に立ったことは?

- A. 教授との関係(上司との関係に似ているので。)
- A. 自炊。買い物や料理は、農林水産行政の勉強につながります。
- A. 部活動で覚えた気配り(仕事では色々なことに配慮が必要!)
- A. 研究計画を立て、それに基づき実験を行うこと(業務の優先順位をつけながら進めていくことに役立っています。)
- A. 学生時代の友達。

Q.10 農林水産省を目指す方にメッセージを。

- A. 一緒に日本の食を支えていきましょう。
- A. ファイト!!
- A. 農林水産省の所管業務の中に、一つでも興味があるものがあるれば、農林水産省はあなたにとって最適な職場です。是非チャレンジしてみてください!





# Rookies Profiles

一日一日の経験の積み重ねがキャリアアップへ！  
フレッシュな発想も大切にされています。

## 消費・安全局 農産安全管理課 高岸さんの一日



熱い上司、  
同僚から、  
新しい刺激を受ける  
毎日です。

消費・安全局農産安全管理課  
農産国際調整係長

**高岸 克行**  
Yoshiyuki Takagishi



**出勤**  
ニュースチェック終了後、昨夜寝かせた資料に「おはよう」の挨拶。新鮮な顔で見直す、意外とアイデアが浮かびます。



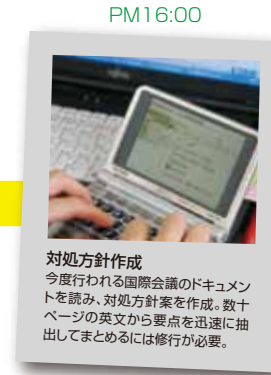
**会議・打合せ**  
国際機関で進められている新しい試験方法の状況を共有し、今後の対策について議論。



**昼休み**  
時には家から持参した弁当を食べることも。食後のコーヒーは、午後の仕事の効率化に必須。



**上司と相談**  
朝作った資料を上司に報告。紙は修正され、真っ赤に。さらに宿題が…。



**対処方針作成**  
今度行われる国際会議のドキュメントを読み、対処方針案を作成。数十ページの英文から要点を迅速に抽出してまとめるには修行が必要。



**情報収集**  
諸外国の農業規制の内容・今後の動向について、各国政府や国際機関のWeb、大使館等から情報収集。

**My Carrier**  
平成18年入省 技術系(理工IV)  
平成18年4月 大臣官房情報課配属  
平成19年9月 大臣官房環境バイオマス政策課  
平成20年10月 消費・安全局農産安全管理課  
平成22年4月 現職

**農林水産省を志した理由は？**  
大学時代の「骨の再生」の研究から、興味は「日本の再生」に。一番改革が必要な分野に挑戦しようと思い、結果的に農水省に出会いました。

### 携わっている政策は？

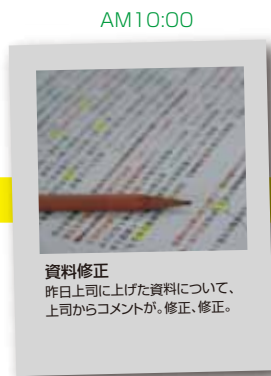
皆様に安全で高品質な食品を安定的にお届けできるよう、生産から消費にわたって食品の安全性を向上させるための取組を推進しています。中でも農薬は、意図的な使用の結果として環境中に放出されるため、人の健康や環境に影響を及ぼさないよう、厳しい安全性審査を経て問題のないもののみ製造や使用できるようにしています。近年、国際的にはOECD等において、より安全な農薬の確保や審査の効率化に向けた取組が行

われつつあります。そのため、我が国においてもこれらの国際動向や最新の科学的知見に基づき、将来的により安全性の高い農薬を安定的に供給できるよう制度の刷新を進めています。私の仕事は、国際会議への対応をはじめ、諸外国の政策の情報収集・分析を行い、今後我が国で必要な対応策を企画立案することです。上司や同僚は、気さくで議論好きな人が多く、日々新しい刺激を受けています。

## 経営局 金融調整課 笹野さんの一日



**登庁**  
メールチェックと今日一日やることリストを確認。



**資料修正**  
昨日上司に上げた資料について、上司からコメントが。修正、修正。



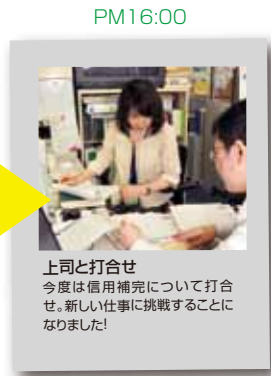
**ご飯の前にランニング**  
趣味のランニングで、気分をリフレッシュして午後の仕事に臨みます。



**他課と打合せ**  
他課と改正法施行に向けた作業の打合せ。



**法令チェック**  
要綱の確認作業。最近は日常生活でも送り仮名とかが気になる(苦笑)



**上司と打合せ**  
今度は信用補完について打合せ。新しい仕事に挑戦することになりました!

毎日優しい  
上司に囲まれて、  
楽しく仕事を  
しています。

### 携わっている政策は？

経営局は、農業が産業として発展していくために、農地制度、税制、共済など様々な施策の企画・立案を行う部局であり、金融調整課はその中で金融部門を担っています。大きく分けると、政府系金融機関などを通じて行う政策金融、資金の借入れを円滑にするための信用補完、そして農協系統金融機関に対する指導・監督があり、特に今年度は法改正により、政策資金と信用補

完の制度設計を見直したばかりです。法改正の準備をしているときは本当に忙しかったのですが、深夜になると毎日(笑)褒めてくれる上司のもと、まだまだできる!と(勘違いして)、労働時間としては厳しい日が続きましたが、精神的には元気に乗り切ることができました。

**My Carrier**  
平成21年入省 事務系(法律)  
平成21年4月 経営局金融調整課配属

**農林水産省を志した理由は？**  
生きるために「不可欠」な「食」を守る仕事の重要性にひかれました。また、学生時代に日本食のソフトウェアを実感する経験をしたことも動機の一つです。

経営局金融調整課 総括係

**笹野 ふうみ**  
Fumi Sasano







# another fields

活躍の場は、日本中から世界中まで広がります。



# another fields

Genève  
ジュネーヴ  
Comune di Roma  
ローマ

これまでに培った行政官としての能力をフル活用。毎日が挑戦の連続でとても刺激的です。



**沓掛 明恵** Akie Kutsukake  
FAO(国連食糧農業機関)本部  
(イタリア・ローマ) / 技術協力局 / プログラムオフィサー  
平成16年入省 技術系(農学II)  
(農林振興局農村整備課配属)  
平成17年4月 東北農政局  
津軽農業水利事務所  
平成20年4月 大臣官房国際部  
国際協力課 企画係長  
平成22年3月 現職

**現在手がけている仕事とその魅力**  
私は現在、飢餓の削減や食料安全保障の確保を理念に掲げる国連組織で、開発援助プロジェクトの後方支援を行っています。事業の立ち上げから終了までの過程に関与し、滞りなく事業が遂行されるようサポートすると同時に、資金提供していただいたドナーに対する報告や説明、時には追加支援の要請を行います。ドナー国との調整連絡窓口を担うためには、その国の政策決定プロセスや予算決定の仕組み、開発援助方針等を把握しておくことが必要です。私自身、地方の出先機関と本省での勤務を経て海外に赴任しましたが、これまで培った行政官としての経験と知識や、洞察力をフル活用して現在の国際機関での任務に当たっています。自分が成長しなければならぬ点は多々ありますが、毎日が挑戦の連続でとても刺激的な職場環境です。

Time table

- 8:30 時差の関係で、午前中は日本を含むアジアの事務所から届くメールの処理に追われます。
- 12:00 屋上のカフェテリアで同僚と昼食。日本では考えられない豊富なパスタメニューに驚き。
- 13:00 本国内で関係部局と世界各地で実施される援助プロジェクトについての打合せ。
- 15:30 ドナーから頂いた資金がどのように活用されているか、韓国・日本政府にプロジェクトの進捗報告。
- 17:00 FAOでの語学研修に参加。研修は新たな出会いの宝庫です。
- 19:00 職場で読みきれなかった文献があれば、環境や気分を変えて資料を眺めます。

**印象に残っているエピソード**  
地方の出先機関に赴任していた頃、工事実施に当たり地域の協力を求めるため住民説明会を開催しました。誰にでも理解してもらえるような説明を心掛けたいところ、参加者から「目的や趣旨を良く理解できたよ」と工事着工への賛同の言葉を頂けたことが思い出です。「国の施策は国民の為にある」とは当然のことですが、いつまでも顔が見える行政官でありたいと思います。

農林水産分野の交渉は全体の交渉を大きく左右する重要なカード。責任は重大ですが、その分やりがいもあります。



**峯村 英児** Eiji Minemura  
在ジュネーブ国際機関  
日本政府代表部 一等書記官  
平成9年入省 事務系(経済)  
(林野庁林政課配属)  
大臣官房秘書課  
平成10年7月 構造改善局農業経営課  
平成12年7月 米田コロンビア大学  
大学院留学  
平成13年7月 大臣官房文書課係長  
平成15年7月 国土交通省土地・水資源局  
土地情報課課長補佐  
平成16年7月 国際部  
平成18年11月 貿易関税チーム課長補佐  
平成20年7月 農村振興局  
農村計画課課長補佐  
平成21年5月 現職

**現在手がけている仕事とその魅力**  
世界貿易の基礎的枠組みであるWTOにおける農林水産物・食品に関する新たな多国間貿易システムの構築のため、各国交渉官などと交渉を行っています。多国間貿易システムの構築は、各国の利害がぶつかり合うゲームであり、それを取り巻く環境は、新興国の台頭など、近年大きく変化しています。このような大きな舞台で、我が国の「多様な農林水産業の共存」という目標をいかに実現していくのかということを考えるのはワクワクする仕事です。特に、多国間貿易システムの構築において、各国とも農林水産分野をとても重視しています。農林水産分野の交渉は、全体の交渉を大きく左右し、ゲームにおける有力なカードです。このカードを有する者の責任は重大です。さらに、この責任は、交渉現場だけではなく、交渉結果を踏まえた国内政策の構築にまで及び、つまり国内政策を考慮しつつ交渉を行うことができるのも、現場と直結している農林水産省ならではの魅力です。

Time table

- 8:00 東京からの情報や当地の業界紙をチェックしキャッチアップ。この時点で東京は既にフル稼働中。場合によっては電話連絡。
- 9:00 友好国と対処方針について議論。150以上の加盟国を有するWTOにおいて発言力を確保するには、友好国とのグループ作りが重要です。
- 10:00 議題ごとに加盟国が意見を交換。関心が高い議題になると、30以上の国が発言し、メモを取るのも一苦労。
- 13:00 東京からの出張者と午後の対処方針打ち合わせを兼ねたランチ。
- 15:00 午前引き続き会合。我が国もタイミングを見計らって発言。その後の各国の反応にも注意を払います。
- 18:00 職場に戻って、本日の会合の結果を大使などに報告すると共に、今後の対処方針について議論。
- 20:00 東京への報告や各国担当官への連絡、さらには資料整理。翌日の仕事の仕込みも重要です。

**印象に残っているエピソード**  
今年1月末にダボスで開かれたWT O閣僚会合に農林水産大臣が出席された際、私の乗った車が大雪のため坂道を上れず、スイス陸軍に車両を牽引され、ぎりぎり大臣到着前に現場到着、事前準備を終えられました。これには焦りました…。

# 海外勤務

刻々と変化する国際情勢。その中で、我が国の農業政策はグローバルな視点での共存共栄を目指しています。その政策を考えるべく、農林水産省では、国際機関への出向、各国の農業政策、農業技術研究のための留学など多くの職員が海外で活躍しています。





# another fields

地域ほど、農林水産業や食の問題が大きな課題となる。それだけ農林水産省の仕事は、やりがいがあるということ。



日向 彰 Akira Hinata  
静岡県経済産業部水産業局長

- 平成8年入省 (事務系(法律)) (構造改善局総務課配属)
- 平成9年7月 構造改善局農政課
- 平成11年4月 内閣官房外政審議室主査
- 平成13年7月 経営局総務課係長
- 平成14年2月 経営局金融調整課係長
- 平成16年4月 大臣官房文書課 法令審査官
- 平成18年8月 総合食料局 食糧部計画課課長補佐
- 平成20年4月 大臣官房企画評価課 企画官(株式会社ニチレイ 経営企画部に派遣)
- 平成21年4月 現職

### 現在手がけている仕事とその魅力

私のメインの仕事は、一言で言えば、静岡の漁業者の経営の発展をサポートすることです。

近年、静岡の漁業者数は増加しており、伊東・網代の定置網、伊豆のキンメダイ漁、戸田の旋網、由比の桜えび漁、浜名のアサリ・シラス漁など、収益力がある漁業には若い漁業者が確実にいます。収益力を付けるには、コストを削減し、売上げを伸ばすことが必要であり、そのために必要なあらゆること～スーパー・食品企業など消費サイドと産地・漁業者とのつなぎ役から、各地域の市町村長と連携した水産を一つの柱とした地域づくりまで～の具体的な仕掛けを、漁業者などに提案し、議論した上で、漁業者とともに全身全霊を捧げて実践しています。

これらの取組により、静岡の水産をさらに成長・進化させていくことが私の目標です。

### Time table

- 9:30 出勤後、静岡県版事業仕分けの内容について、上司である経済産業部長と打合せ。
- 10:45 漁協・市長・旅館組合と検討している漁協直営レストラン事業の立上げに向けた打合せ。
- 12:20 昼食は、県庁最上階の見晴らしの良い食堂で。
- 12:50 午後の意見交換に向け、急いで移動。
- 14:00 遠州灘のシラス漁業者との意見交換。今後進むべき方向性、具体的取組、行政と漁業者とのタッグの組み方について議論。
- 17:30 某地域における産地市場の統合問題について、某県議会議員と厳しい議論。
- 19:30 明日やることを頭で整理しつつ、帰宅。

### 印象に残っているエピソード

115年続く由比の桜えび漁に参加した時、全漁船を束ねる組合長の統率力・全720人の漁業者の団結力・洗練された漁労活動を見て強烈に感銘を受けました。

また、高齢世代と未来の漁業を担う若者世代との議論を聞き、地域社会のつながり方を見たことも印象に残っています。

思いをすぐ形にでき、結果を肌で感じられるのが、今の仕事の魅力。課題解決のため、知恵を絞って奮闘しています。



舘 麻里亜 Maria Tachi  
長野県木島平村 交流産業推進室 交流産業係

平成19年入省 技術系(農学I) (経営局保険課配属)

平成21年4月 現職

### 現在手がけている仕事とその魅力

私のいる木島平村は、稲作主体で中山間農地が多く、高齢化も進んだ地方の縮図ともいえる自治体です。

私の主な業務は、環境にやさしい農産物の栽培の推進、村内農産物のブランド化のための試験研究や商品開発、都市住民の誘客を目的とした農をテーマとするイベントの実施など多岐にわたります。この地域を良くできなければ、全国各地の農山村で抱える問題を解決することもできないのだという心構えで、常に業務に取り組んでいます。

今の仕事は、自分の裁量でこなせるものが多く、自分の考えや思いをすぐ施策や企画として形にできます。地域の人々のためにクリエイティブな仕事ができ、その結果を肌で感じられることは、自分にとってこれ以上ない魅力です。そして暖かく迎え入れて下さった村のみなさんに感謝しています。

### Time table

- 6:00 起床後は畑仕事。勉強も兼ねて、畑を借り、野菜を育てています。
- 8:30 出勤後の日課は、試験栽培中の食用ほおずきとハックルベリーの苗の水やり。遊休荒地向けの有望作物です。
- 9:00 村担当の普及員さんと村民の方と、3人で企画中の米粉料理講座の打合せ。
- 10:00 補助事業の関係書類、担当プロジェクトの企画書を作成。村民からの問い合わせにも随時応じます。
- 12:00 昼食は、村内産米を使った、手作りのお弁当で。
- 14:00 課員全員で明日の田植体験イベントの準備。会場の設営・案内看板の設置など、力仕事も結構あります。
- 18:30 明日はよいよイベント当日。今日の晩ごはんは、村特産のアスパラガスの素揚げで。力をつけて、明日も頑張ります。

### 印象に残っているエピソード

村内産米の商品化のため、地域の農家さんをお願いにまわった時期がありました。農協は反対、農家も消極的で、一向に進まないプロジェクト。思いつくこと、企画することは簡単でも、実際に進めることは実に労苦を要するのだと実感する毎日でした。

Nagano Prefecture  
長野県

Shizuoka Prefecture  
静岡県

# 地方勤務

食卓を支えているのは地方の農山漁村。農業の構造改革を進め、食の安全を守り、農山漁村の活力を支援していくためには生産現場の声を的確に把握していくことが大切です。そのため多くの職員が地方出先機関や地方公共団体に勤務して、様々な経験を積んでいます。

# 民間

民間企業と国の機関とが果たす役割は異なりますが、ともに日本の発展のために寄与していく必要があります。民間企業と国との相互理解を深めること、多様化する行政ニーズに的確に対応できる人材育成を図ることを目的に、農林水産省から民間企業に出向し、働いている職員がいます。

実際の経済活動の中で、霞が関がどう評価され、どのように日本を変えていくのかを考える大変よい経験ができています。



大口 篤志 Atsushi Oguchi  
株式会社 電通 ソーシャルプランニング局

- 平成13年入省 事務系(法律) (水産庁漁政課企画法令係配属)
- 平成15年4月 岩手県庁出向 農村振興局
- 平成17年4月 総務課総務班法令係長
- 平成18年6月 イリノイ工科大学留学 大臣官房国際部
- 平成20年6月 国際経済課国際専門官
- 平成21年4月 総合食料局 食品産業企画課課長補佐
- 平成22年4月 現職

### 現在手がけている仕事とその魅力

現在、訪日外国人観光客の増加を目的に官民で一体となって推進している「ビジット・ジャパン・キャンペーン」と関連した観光プロジェクトに参加しています。プロジェクトを進める中で日本の魅力をどうやったら外国の方々に分かり易く伝えられ、日本の良いイメージを持ち帰って周りの方に伝えてもらえるかを毎日考えています。

今の仕事はまだ始めて日が浅いので、「これが魅力です!」とは伝えづらいですが、現場から離れがちな霞が関では感じ難い「実際の経済活動の中で霞が関がどう評価され、どのように日本を変えていくのか。」を実感でき、「今後の行政に何を求められるのか」について考える良い機会となっていると思います。

### Time table

- 9:00 メールのチェックや本日の流れについて頭を再整理し、打ち合わせに備える。
- 10:30 前回の打合せで決まった方向性に沿って、細部の意見交換。使っているアプリについても、こうやって出来たのだから。
- 12:00 お弁当を食べてから、気分転換に周辺を散歩。午後の業務に向けて充電。
- 13:30 クライアントに提出する企画案について関係者と調整。お互いの立場からの調整は各省協議に似ているかも。
- 14:30 打合せに備え、資料を作成。パワーポイント中心の一目でわかるものにしなれば!
- 17:00 NPOの方と打合せ。日本の食文化を守るだけではなく諸外国に広げているためにも、現場で努力を重ねている方々とのネットワークは重要。
- 20:00 打合せを終えて、帰宅。

### 印象に残っているエピソード

「国って、これができないんですか!」や「こんなことに取り組んでいるなんて、意外に頑張っているんですね。」と言われることが多く、世の中で考えられている霞が関像と実際の姿にギャップを感じます。

食品企業視点からの国内農業との関わり——農水省にはできないこの経験が、今後の行政官としての仕事に役立つと信じています。



今井 聡 Satoshi Imai  
サントリーホールディングス株式会社 品質戦略部

- 平成14年入省 技術系(農学I) 入省 (食糧庁消費改善課配属)
- 平成15年7月 大臣官房予算課
- 平成17年4月 生産局 畜産振興課需給対策室
- 平成19年10月 大臣官房秘書課
- 平成21年7月 現職

### 現在手がけている仕事とその魅力

「組織たるもの官も民も求められる能力は同じ」というのが出向して感じたことです。現在プロジェクトを複数動かしていますが、推進できるかどうかは「調べて、詰めて、企画して、関係者を巻き込む」という基本動作をいかに無駄なく迅速に行うかにかかっています。この点では、農水省で鍛えられ、培われた基本動作が今の自分にとって大きな武器になっています。

現在、国産ぶどうの調達を強化するプロジェクトを担当しています。企業の経営課題を戦略に落とし込み、自らが牽引する活動はやりがいがあります。食品企業視点からの国内農業への関与は、今後農水省で担う施策の企画に大きく役立つのではと期待しています。行政官には何よりも幅広い視点が必要ですからね!

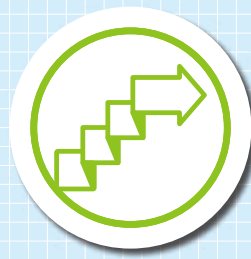
### Time table

- 10:30 関連部門の担当者に、進行中のプロジェクトの概略を説明し、今後の協力を要請。相手に呑み込んでもらえるようなプレゼンを心がける!
- 11:00 プロジェクトの課題について法務部門に相談。法規に基づきロジックと方針を策定。
- 12:00 お台場のレストランで昼食。
- 13:00 午前中のミーティングを踏まえ、今後の課題を整理。夕方の外部打合せに向け、獲得目標の設定と説明ストーリーを構築。
- 16:00 プロジェクト実行の鍵を握る外部組織と打合せ。仕事の基本は信頼関係なので、正直かつ真摯なやりとりが求められる。
- 20:00 外部組織担当者と思えば、このような場で築く信頼関係も重要です。

### 印象に残っているエピソード

出向と同じタイミングで、ライバル会社との合併話が取りざたされ、社内でもしばらくその話題で持ちきりでした。常に市場競争にさらされていること、市場はグローバルになっていることを肌で感じています。

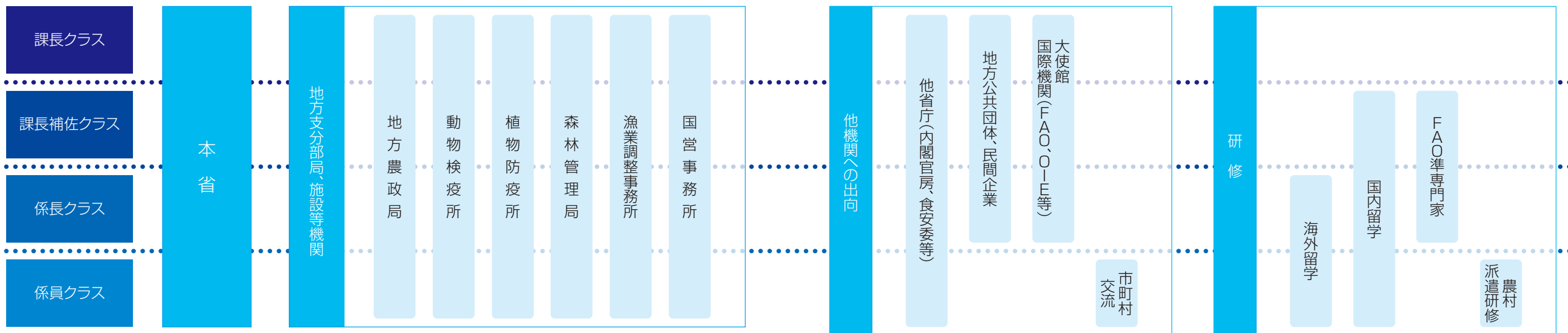




# carrier planning

農林水産省では、「なりたい自分」を実現するためのキャリアアップが可能です。幅広い知識と経験を養うための多様なキャリアパスをご用意しています。

## キャリアパス



## 研修制度

### 初任者研修(入省1年目)

入省1年目の職員を対象としたプログラムです。まず、他府省庁職員との合同研修が、4月上旬の2泊3日と5月以降の約1ヶ月の2本立てで行われます。政策課題研究やディベート、地方自治体での研修など、様々なプログラムが組まれています。さらに、4月中旬には農林水産省独自の研修において、農林水産政策全般に関する講義を受講するとともに、実際に圃場に出て農業の生産分野に関する実地研修等を行います。

### 農村派遣研修(入省2年目)

各自の設定したテーマごとに全国各地の農山漁村に派遣され、1ヶ月間農家に泊まり込んで現地の作業等を体験する研修制度です。生産現場の実態を見聞きし、農家の方と意見交換をする中で、現場に根ざした政策立案能力を身につけることを目的としています。

### 民間派遣研修(係長級~)

様々な業態の民間企業において、接客や広報業務などの実地研修を行います。行政に求められるニーズが多様化する中で、これらのニーズに的確に対応できるよう、職員の資質と能力の向上を目的としています。

### 英会話研修(入省1年目~)

民間の英語学校で英会話の授業を受講する研修です。個人のレベルにあったコースを受講します。

### 国内留学(入省3年目~)

人事院の国内研究員制度により、国内の大学の修士課程等に2~3年間派遣する制度です。

### 海外留学(入省4年目~)

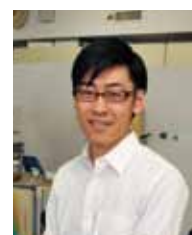
人事院の長期在外研究員制度により、修士号取得を目的として海外の大学へ2年間派遣する制度です。公共政策学や国際関係論、食品衛生学など公務に活かせる学問分野を各人で自由に選択できます。派遣先国は、アメリカ、イギリス、中国、フランス、オーストラリア、オランダ等多岐にわたります。

### 各種勉強会

月に1度、各会の有識者等を講師とした職員能力向上講座を開催しています。また、職員有志による自主勉強会への助成や、大学などの公開講座を受講する際の助成なども行っています。

### 農村派遣研修体験レポート

農村派遣研修は、実際の農山漁村での作業等が体験できる、農林水産省独自の研修制度です。実際に研修に参加し、農村での生活経験をしてきた職員のレポートを紹介します。



経営局金融調整課  
市橋 寛久  
Hirohisa Ichihashi

平成20年入省(農学I)  
(消費・安全局表示・規格課配属)  
平成21年6月 現職  
派遣先：千葉県旭市 農事組合法人旭愛農生産組合

千葉県旭市は日本有数の農業地帯ですが、その中でも、旭愛農生産組合は先駆的な産直団体です。私は、1ヶ月の研修期間中、5軒の組合員の農家で、それぞれ5~6日ずつ研修を受けました。

お邪魔した5軒の農家は、脱サラして新規就農された方からベテラン農家まで世代もバックグラウ



お世話になった農家の皆さんとの懇親の様子  
(筆者:前列右から3番目)

ンドも様々で、作目も、稲作、野菜、養鶏とこれまた様々でした。

ですので、非常に「ギョッと」詰まった1ヶ月間で、頭と体のいろいろなところが刺激され、学ぶところ、得るところがとて多い、大いに充実した研修でした。

では、何を学び、何を得たか。大きなことから小さなことまでいろいろありますが、その中でひとつ挙げるとすれば、ともすると国の施策は、現場においてその当初の目的が失われる、ということでしょうか。現場では予算の消化が目的化してしまったり、あるいはそもそも施策が実態に即していなかったり...

日々仕事をしていると、どうも、予算の獲得、制度の設計、法令の改正といった目先のゴールにとらわれがちです。でももちろん、これらは施策のスタートに過ぎません。本当はそこから先、予算が目的通りに使われているか、制度が目的に即して運用されているか等々、そういったことが大事なはずなのです。「やりっぱなし」ではなく、自分の日々の仕事の結果を振り返り評価する。その積み重ねが「本当に役に立つ施策」への地道な道のりなのではないかと、1ヶ月の研修を終え職場に戻った今、そんなことを感じているところです。







# recruit info

## 採用スケジュール

4月	4月1日~4月8日	国家公務員採用I種試験申込受付期間
	5月2日	第1次試験 教養試験(多肢選択式:3時間) 専門試験(多肢選択式:3時間30分)
5月	5月14日	第1次試験合格者発表
	5月23日	第2次試験(筆記試験) 専門試験(記述式:行、法、経:4時間/その他:3時間30分) 総合試験(記述式:2時間)
	5月27日~6月11日	第2次試験(人物試験)
6月	6月22日	最終合格発表
	6月23日~7月7日	官庁訪問
7月~10月	7月8日	内々定解禁
	10月1日	内定

※平成22年度の日程です。  
最新の試験日程については人事院HPでご確認下さい。

## 採用実績

試験区分(※)		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
事務系	法律	8	12	10	12	7
	経済	3	3	3	2	10
	行政	2	0	2	0	1
	事務系合計	13	15	13	14	18
技術系	人間科学I(心理)	0	0	0	1	0
	人間科学II(教育・福祉・社会系)	0	0	0	0	0
	理工I(電気・機械・建築系)	4	1	2	1	4
	理工II(数理科学系)	0	0	0	0	0
	理工III(物理・地球科学系)	1	1	0	1	0
	理工IV(化学・生物・薬学・農芸化学)	6	3	7	5	6
	農学I(農業科学系)	16	16	13	13	14
	農学II(農業工学系)	14	12	15	14	16
	農学III(森林・自然環境系)	14	13	13	13	13
	農学IV(水産系)	6	4	4	5	4
	獣医	19	12	14	16	15
	技術系合計	80	62	68	69	72
合計	93	77	81	83	90	

※( )内は、主な学問領域

## 試験区分と採用予定部局

農林水産省ではすべての試験区分から採用を行っています。  
試験区分と採用予定部局はおおむね以下のような関係となっています。

採用後は、本人の適正や専門性と希望に応じて  
様々な部局を経験することになります。

- 事務系(行・法・経)：すべての局庁
- 農学II(農業機械以外)：農村振興局
- 農学III：林野庁
- 農学IV：水産庁
- 理工I(土木・造船等)：水産庁

それ以外の試験区分：林野庁、水産庁以外のすべての局庁

## 待遇

<p><b>初任給</b></p> <table border="1"> <tr> <td>修士卒 / 227,824円</td> <td>学部卒 / 210,192円</td> </tr> </table> <p>※東京都23区に所在する機関に勤務する場合の地域手当を含む</p>	修士卒 / 227,824円	学部卒 / 210,192円	<p><b>勤務時間</b></p> <p>8:30~17:15 ※部署により異なる場合があります。 ※本省は、①8:30~17:15 ②9:00~17:45 ③9:30~18:15の3パターン</p>
修士卒 / 227,824円	学部卒 / 210,192円		
<p><b>諸手当</b></p> <p>扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当、単身赴任手当 等</p>	<p><b>休日休暇</b></p> <p><input type="checkbox"/> 休日：土曜日・日曜日・祝日・年末年始 ※部署により異なる場合があります。 <input type="checkbox"/> 休暇：年次有給休暇20日/年 ※4月1日採用の場合、採用の年は15日。 残日数は20日を限度として翌年に繰り越し。 <input type="checkbox"/> 特別休暇：夏季休暇、結婚休暇、忌引休暇 等</p>		
<p><b>賞与(ボーナス)</b></p> <p>期末手当、勤勉手当として、1年間に俸給などの4.45ヶ月分(6月、12月)</p>	<p><b>福利厚生</b></p> <p><input type="checkbox"/> 公務員宿舎(独身宿舎、世帯宿舎) <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 健康診断、検診事業 <input type="checkbox"/> 各種共済制度 (医療給付、結婚や出産に伴う手当金の給付、育英資金や住宅資金の貸付業務、年金事業、宿泊施設 等)</p>		
<p><b>昇給</b></p> <p>年1回</p>			

## 支援制度

<p><b>産前産後休暇</b></p> <p>6週間以内に出産する予定の場合、及び出産の翌日から8週間を経過する日までの期間で取得可能。</p>	<p><b>育児短時間勤務</b></p> <p>子が小学校就学の始期に達するまで、子を養育するために認められる短時間勤務。</p>
<p><b>育児休業</b></p> <p>子が3歳に達するまで、子を養育するために一定期間認められる休業。</p>	<p><b>介護休暇</b></p> <p>配偶者、父母、子等で負傷、疾病又は老齢により2週間以上にわたり日常生活を営むことに支障がある者の介護をする場合、それぞれの介護ごとに6ヶ月以内で取得可能。</p>
<p><b>男性職員の育児参加休暇</b></p> <p>妻の出産後8週間までの期間に、子を養育するために5日以内で取得可能。上に小学校就学前の子がいる場合は妻の産前6週間前から取得可能。</p>	<p><b>早出遅出出勤</b></p> <p>育児又は介護を行う職員が、勤務時間帯をずらすこと(早出又は遅出)を認める制度。</p>
<p><b>配偶者の出産休暇</b></p> <p>妻の出産に伴う入院の付添い等のために2日以内で取得可能。</p>	<p><b>超過勤務の免除</b></p> <p>子が3歳に達するまで、子を養育する職員の超過勤務を免除する制度。</p>
<p><b>業務軽減</b></p> <p>妊産婦である女性職員の業務の軽減又は他の簡易な業務に就かせることを認める制度。</p>	